

総社市地域公共交通会議 会議録

令和元年9月24日（火） 10:00～11:30

総社市保健センター 1階 運動指導室

出席者

総社市地域公共交通会議委員：14名

〃 専門員：7名

事務局：11名（交通政策課，地域応援課，都市計画課，政策調整課，土木課，観光プロジェクト課，長寿介護課）

コンサルタント：2名

【開会】

出席者 14，委任状 1 名 過半数超え会議成立

- ・平松会長あいさつ
- ・新委員，専門員紹介

議事「2. 交通戦略の策定について」

事務局説明

委員：3 ページのイメージ図にある地域拠点の 1 つとして服部駅・県大周辺がある。県大から都市機能誘導区域へ移動は自家用車を除き電車と雪舟くんの 2 つしかない。簡単に都市機能誘導区域へ移動できる手段の整備が必要と考える。

事務局：確かに県大生の方は服部駅から電車に乗るか平日は雪舟くんに乗るしかない。岡山市～高梁市の路線バスもあるが，説明にあったとおり本数も少なくなかなか利用が難しい。今後，県大生が岡山市へ行くだけでなく，総社市内へ行きやすい方法を考えていきたい。

委員：桃太郎線の LRT 化に伴い，新駅が 2 つ程度でき，ダイヤも増便する。県大周辺の農業振興地域の解除が問題であるが，平行して行っている状況。

委員：総社市総合交通戦略について都市・地域総合交通戦略と地域公共交通網形成計画を合わせたものと説明があったが，守備範囲（徒歩，自家用車，公共交通など）は全て含まれていると考えていいのか。

事務局：都市・地域総合交通戦略はハード面の整備が主になる。市としては市内中心部での安全な自転車空間などや，脆弱な南北道の整備については明記したいと思っており，LRT 化の中で決定されたことを盛り込んでいきたい。地域公共交通網形成計画については雪舟くんを含めた公共交通のネットワークを将来，どのように改善すれば高齢化社会に対応できるかという計画にしていきたい。

議事「3. (1)「地域公共交通をめぐる課題の整理」と「計画の理念と目標」

事務局説明

委員：目標 4 にある総社版観光二次交通には非常に共感している。新たな計画が進んでいくのを期待す

る。

事務局：先般、関係者が集まり会議を開催した。JRの「観タクン」が観光施設のみの周遊となっているが土産物屋を含めたサービスをして、利用しやすいものにしてはどうかというような意見があった。各業者の協力により多くの観光客が循環するようにしていきたい。

委員：総社市内の路線バスは朝・夕のみで便数が少ない状況。雪舟くんは利用者が多くなっている。正午ごろの利用が多い時間帯にバス・タクシー事業者として何か協力を考えていきたい。

委員：将来、人口減少が想定される中で、働き手の確保も困難になっていく。その中で持続可能なものを検討していただきたい。運行本数を増やす場合には、運転手や台数も確保しなければならないので、本数を増やし、利用者も増やすことを考えた計画を策定してもらいたい。

事務局：中鉄バスの大井線が現在、休止中となり困るのは利用者になる。利用者・市民が困らないようにそれぞれの立場から考えていきたい。

委員：「全国屈指の福祉文化先駆都市を支える」とあるが、どのあたりが特徴としてあるのか。

事務局：目標6にあるように高齢者や障がい者の方を含め、全ての方が中心部においては移動しやすく、周辺部においても中心部に移動しやすい交通環境を作っていきたい。

委員：他市町村の場合は生活交通と福祉交通は別で考えていて、うまく融合できない課題がある。総社市としては一緒として考えるイメージなのか。ユニバーサルデザイン化はもちろんすべきであるが、もう一步踏み込んで「全国屈指の福祉文化先駆都市を支える」という部分を明確にするとよりいいものになると考える。

事務局：福祉部局で計画しているものについても取り入れていきたい。

委員：高齢化が進み、障がい者に対する施策を総社市は行っているのだから、そのあたりをハッキリと理念に入れて欲しい。文章もすっきりとしたもので分かりやすいものにして欲しい。

今後、高齢化が31～32%になると予想される中で、それを抑えていく施策が総社市にはあると思うが、居住誘導区域を設定すると、西部地区や北部地区は過疎が進んでいく前提で計画を立てているのか。高齢化が進んでいく地域の居住についても市で計画をしていると思うが、それに対する公共交通も考えていかなければならないと考える。買い物や通勤のほか、高齢者同士のコミュニケーションのための交通が必要になるのではないかな。

災害対応のため、道路拡幅を行っていくが、高齢者や障がい者はどうしても自分で移動できない。そのときに被害を最小限に防ぐことを考えてもらいたい。

委員：他市町村の動きはどうか。

専門員：働き手の確保として、バス・タクシーになるが県北では津山圏域（6市町）と真庭市で二種免許取得の助成制度を始めている。

専門員：国道事務所では総社一宮バイパス事業を行っているのだから、市道の南北道拡幅と連動しながら進めてもらいたい。

専門員：総社市の立地適正化計画の概念とリンクして計画を策定してもらいたい。人口が減少し、高齢化が進む中でそれに対応する持続可能なまちづくりの計画として同時並行していると思うので、しっかりと足並みをそろえてもらいたい。

専門員：観光客が岡山空港や岡山駅から国分寺に行きたいときにスマートフォンに交通手段が出てこないのが現状。将来的にはデータをオープンデータ化、バスのダイヤや雪舟くんが利用できるような県では指導している。予約が重なった場合に最も効率的なルートが作成できるソフトを事業者と共同で開

発中である。路線バスやタクシー事業者と雪舟くんとがうまく融合して地域の公共交通の利便性が向上するよう県としても支援をしていく。

事務局：いただいた意見を反映させたものを委員へ送付するので、それに対する御意見をいただきたい。

専門員：国の施策として居住誘導区域と都市機能誘導区域に機能を集中させないと今後、まちが成り立っていないという制度であるのでここに集中させるのは間違っていないが、風早委員の言うように西部や北部が取り残されるのはもっともである。都市計画マスタープランをみると美袋駅、服部駅、清音駅が地域拠点となっているところをうまく活かしてもらいたい。福祉交通と生活交通が別々で議論されているがそれをうまく整理して考えてもらいたい。

国土交通省ではウォーカブルシティに力を入れていて、歩きたくなる街づくりをやっている。車交通は絶対になくならない。駅前に駐車場や駐輪場が足りていないように思えたので、駅の周りを学生や会社員向けに賑やかにしていくという方向性も公共交通の利便性や利活用に資するものとなるのではないかな。

事務局：立地適正化計画や LRT 計画を策定するように進めている。土地利用と公共交通についてはセットで考えなければならないので、引き続き進めていきたいと考えている。

議事「3.（2）次回会議に向けた意見交換（事業イメージ）」

事務局説明

委員：美袋駅前にあった商店が昨年の豪雨災害で廃業になり、買い物をするところがなくなった。市長も「何とかしないといけない」と災害後には言っていたが、そこで成り立つ新たな事業者を見つけることは簡単ではない。そういう状況で、以前にも増して昭和地区の方は、買い物をするには中心市街地へ行かないといけない。雪舟くんを利用している人は大変助かっているが、事前に予約をしないと利用ができないので、利用に関して改善をすれば利用率が上がっていくと考える。

委員：総社市の北部は災害があり市の中心部に行かなければならない。西部は真備町が近いので、買い物に行っていたが災害があったので、総社市内へ行っているが交通の問題が出てきている。北部と西部は利便性を何とかして欲しいと要望がでているので、考えていかなければならない。

事務局：美袋駅前については市の復興計画の中であがっている。ただ、どういうものかいいのかは地元の色々な意見を取り入れないといけないので、相談しながら本当に必要なものを考えていきたい。

委員：現在は移動販売車が北部や西部に来ていた状況。

委員：今回の交通戦略は主に総社市内への移動の円滑化というものになっているが、市民ニーズの中にも岡山市や倉敷市へ移動の意見があり、それに関する記述もある。LRT 化や都市機能誘導区域が定められると JR を使って高梁市や新見市から総社市中心部への移動が増えると予想される。また、井原鉄道を使って真備町や矢掛町、井原方面からの人の流入・交流が活発になってくると考える。広域的に考えると西への移動も重要になってくるので、観光など西との交流についても織り込んでもらいたい。

委員：福祉の立場でいくと、高齢者や障がい者が家に引きこもるのではなく、積極的に外に出られるという体制が必要なので事業イメージの中に入れてもらいたい。

居住地は市街化区域が中心になるが、北部や西部は過疎化が進んでいくと、公共交通を利用する人も少なくなり、商店にしても成り立たなくなる。現状だけでなく、そのことも考えてもらいたい。

委員：様々な問題があるなかで、高齢者、障がい者、観光客を含めて「人が動く仕組み」を一緒に作っ

ていきたい。人が動けるような便利さが無い街には人は住まないと思うので、交通の立場からそのような仕組みを作って、人口減少していくのを少しでも遅くできるようにしたい。また、交通の情報が無いところには人は来ないので、交通情報を交通戦略の中で広く発信することも併せて考えていきたい。

委員：事業イメージを考えるときに「空間的な広がりはどう考えるか」、「時間的な広がりはどう考えるか」が非常に重要となる。空間的な話では、市内の中心部と周辺部をどうつなぐかを考えていくことが大事になる。時間的な話では、時間をどう使っていくのか、行った先で時間を有効に楽しく使うのかを考える必要がある。目的がないと人は移動しないので、目的をどういうふうに作っていくかという意味で街づくりと連携することが大事である。雪舟くんの最終便のあとはどうするのか、行きは雪舟くんがいいが、帰りはタクシーを使うと高くなる心配があるので、割引をするとかがあってもいいかもしれない。一つのモードだけで考えるのではなく、自転車や自動車、公共交通も含めてモード間で連携させていくのか、事業化していくのが大事になってくる。「空間」「時間」「モード間」をセットで考えられなければならない。様々なものが電動化が進んでいるので、シニアカーやアシストサイクルの充電できる設備などの問題が出てきている。待ち時間をどうやって楽しんでもらい次につなげていくかを考えなければいけないので、移動手段だけでなく目的地での時間の使い方も含めていくと良くなる。「福祉文化先駆都市」という視点で、「文化」は時間の使い方に関わってくる。「どういう街にしたいのか」「その街に適した交通はどのようなものか」「その事業は何か」を突き詰めていくと他市町村とは違うものが出てくるのではないかと考える。